

「（仮称）地域委員会構想」について 1 経緯・国の施策との関連

- 第三期自治推進委員会「コミュニティ自治推進に向けた検討報告書」（H23.6）
- 第五次多摩市総合計画
 - 第1期基本計画（H23～）「（仮称）地域委員会構想」の推進
 - 第2期基本計画（H27～）「健幸都市（スマートウェルネスシティ）・多摩の創造」
【3つの取組の方向性のうちの1つ】
 - 第3期基本計画（R元～）「健幸まちづくりのさらなる推進」【計画の基盤となる考え方】
「市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり」
【3つの重点課題のうちの1つ】

市

- 「地域共生社会」の実現（厚生労働省）
制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が、「我が事」として参画し、人と人、人と資源が、世代や分野を超えて「丸ごと」につながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会
- 「地域運営組織」の形成（総務省）
地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組みを持続的に実践する組織

国



「（仮称）地域委員会構想」の実現に向けた取組みに本格的に着手

地域共生社会の実現（≡健幸都市・多摩の創造）

（住み慣れた地域で生活していくため、地域ぐるみの支援体制をみんなでつくる）

 **健幸まちづくりの推進（第3期基本計画の基盤となる考え方）**

- 1 超高齢社会への挑戦
- 2 若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるまちの基盤づくり
- 3 **市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり**（≡住民同士の支え合いの仕組みを作る）
≡「多摩市版地域包括ケア」を推進する（⇒障がい者や子ども、複合的な課題も含む）
 - 他人事ではない我が事として考え、地域生活課題の抽出と自分たちは何が
できるかを考え、実行する。【各エリア】
 - 課題の中で、住民だけでは解決できない課題を身近な相談機関につなげる。【全市】


これまで ⇒ 社会福祉協議会による「地域福祉推進委員会」の取組みがあるが、課題あり
今後 ⇒ 参加世代、参加団体を広げ、福祉分野だけでない「（仮称）地域委員会」に拡大

(参考) 多摩市版地域包括ケアシステム

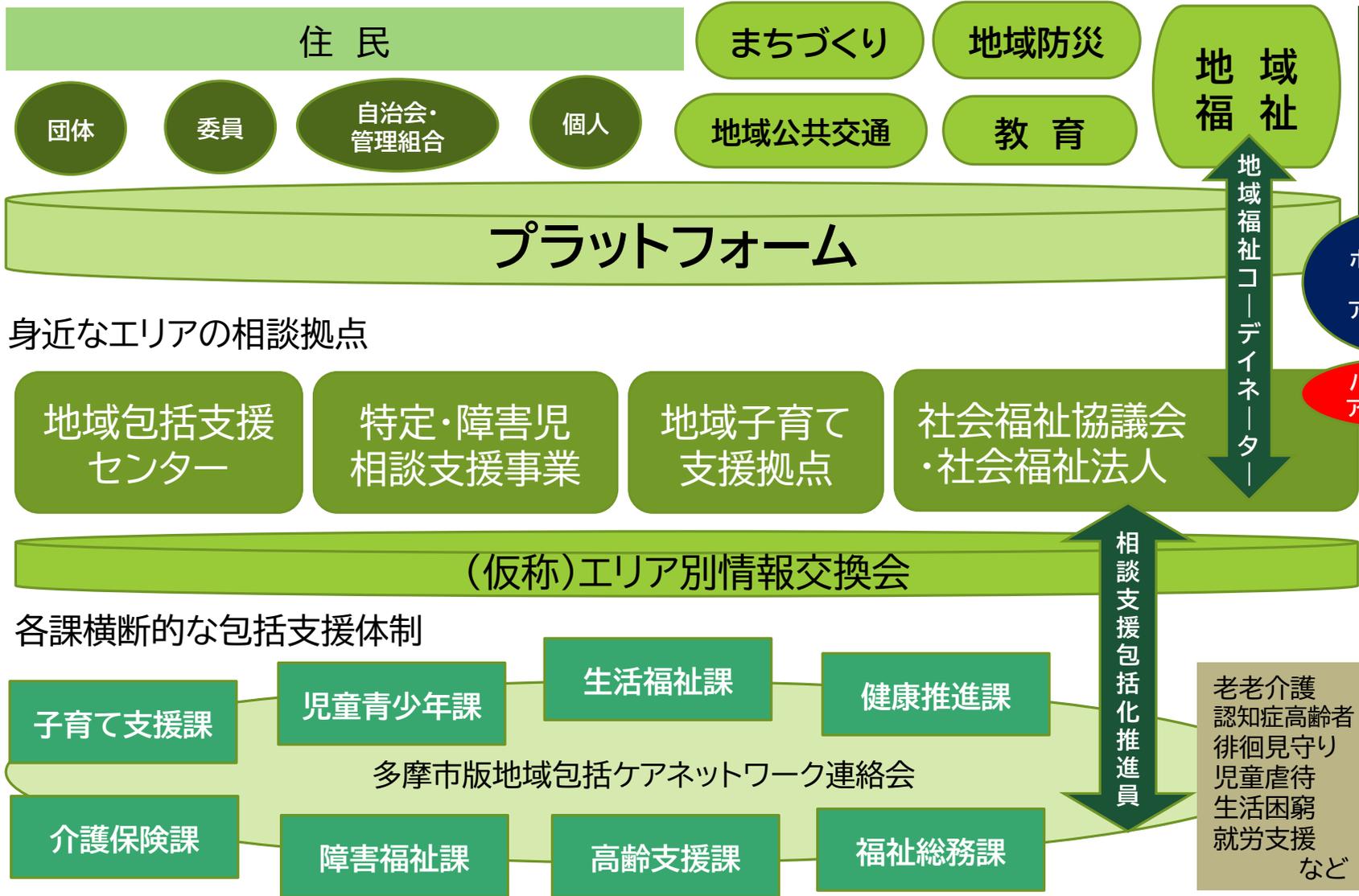
概念イメージ

住民に身近な圏域

市域全体

地域で解決
できる課題

地域では解決できない課題



ポピュレーション
アプローチ

ハイリスク
アプローチ

(参考) 地域共生社会と自助・公助・互助・共助

- 自分のことは自分で解決
- サービスを市場から購入

自助

- 当事者団体の取組で解決
- 有償ボランティアの支援

ポピュレーション
アプローチ

互助

- ボランティア活動
- 地縁団体の活動

- ボランティア、地縁団体の活動への
公的支援

公助

- 行政サービスによる課題解決

ハイリスク
アプローチ

ポピュレーション
アプローチ

共助

- 多様な主体間の連携・交流
による問題解決
- 地域協議会など、地域自治に
よる取組

(参考) 第32次地方制度調査会

「2040年頃から逆算し顕在化する諸課題に対応するために必要な
地方行政体制あり方等に関する答申」(R2年6月26日)

■公共私連携

地域の実情に応じ、地域社会の**多様な主体(コミュニティ組織、NPO、企業等)**が協力し、
きめ細やかな対応・支援を行うことが、危機を乗り越えていく上で大いに効果を発揮する

- 都市部
 - 多様な主体**が多く存在
 - ⇒ 地域社会を支える担い手として役割を果たしていくための環境整備が重要
 - 後期高齢者の増加、生産年齢人口・前期高齢者の減少
 - ⇒ サービスの担い手確保、コミュニティの強化・新たな形成が課題

1 公共私連携・協働の基盤構築

- 市の役割 **多様な主体**のネットワーク化 ⇒ 連携・協働のプラットフォームの構築

プラットフォーム(=地域の**多様な主体**が参画している協議会)

- 条例・要綱等で、地域の将来ビジョンの作成、市への意見具申を担う役割付与
- 地域の実情に応じ、自主的・多様な取組、様々な主体に開かれた取組
- 「地域の未来予測」をふまえ、地域の資源・課題・データを共有し、目指す未来像の実現に向けた議論の場

(参考) 第32次地方制度調査会

「2040年頃から逆算し顕在化する諸課題に対応するために必要な
地方行政体制あり方等に関する答申」(R2年6月26日)

2 共助の担い手の活動基盤の強化

●市の役割

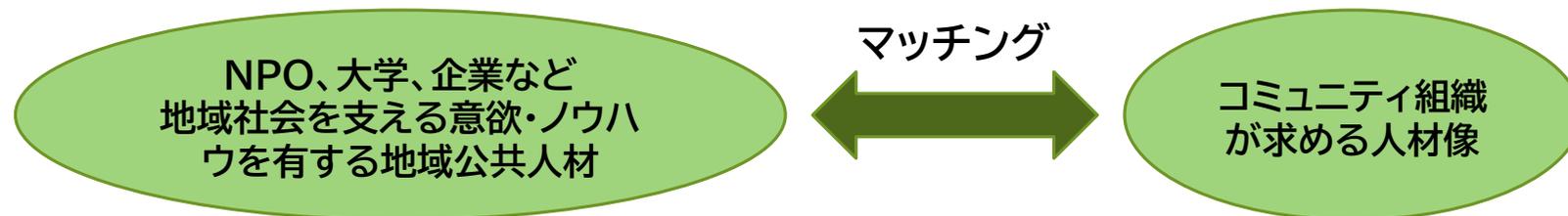
- 多様な住民が継続的に活動に関わるためのしくみづくり
- 人材、資金、ノウハウ等の確保へ向けた支援

●地域人材の確保・育成

- 地域人材の世代交代が円滑に行われる人材確保・育成のしくみの構築
- 地域で活躍の場を求める住民の多様な層が地域活動に参画する機会の創出

- 地域担当職員制** 継続的に特定の地域に関わる職員を確保・育成

●外部人材の活用



地域の活動を運営するための人材(担い手)が 不足していることが様々な場面で課題

これまで自治基本条例に基づいて、市民との協働によるまちづくりを進めてきたが、定年退職で現役をリタイアした後も引き続き就労を継続する市民が増えるなど、社会状況が大きく変わってきている中で、地域の支え手をこの世代だけに求めることは難しくなっている。

例えば

- コミュニティセンター運営協議会
- 青少年問題協議会地区委員会
- 放課後子ども教室の運営メンバー
- 民生委員・児童委員
- 地域学校協働本部のボランティア など



次の世代が**参入しやすく**、
継続して参画・参加できる新しいしくみが必要

様々な分野での地域の活動に横のつながりができていないことから、運営上効率的でない面が生じている

地域で様々な課題解決のために活動する小規模団体が多く存在するが、横のネットワークがないために、活動が重複したり、資源が活かしきれていないなどの課題が生じている。また、地域には、多岐にわたる課題があり、かつ、エリアにより課題の重要性が異なる。地域単位で窓口となる部署がなく、個別の部署ごとに対応していることから、庁内で横の連携・調整ができていないことが多い。

例えば

- 地域防災・防犯対策
- 子どもたちの健全育成
- 高齢者の見守り
- 地域にある公共施設の改修 など



分野(縦)ごとの**団体をエリア(横)でつなぐしくみ**、
庁内も**エリア全体を俯瞰できる職員(組織)**が必要

- 1 次の世代が**参入しやすく、**
継続して参画・参加できる新しいしくみが必要
- 2 分野（縦）ごとの**団体をエリア（横）でつなぐしくみ、**
庁内も**エリア全体を俯瞰できる職員（組織）**が必要



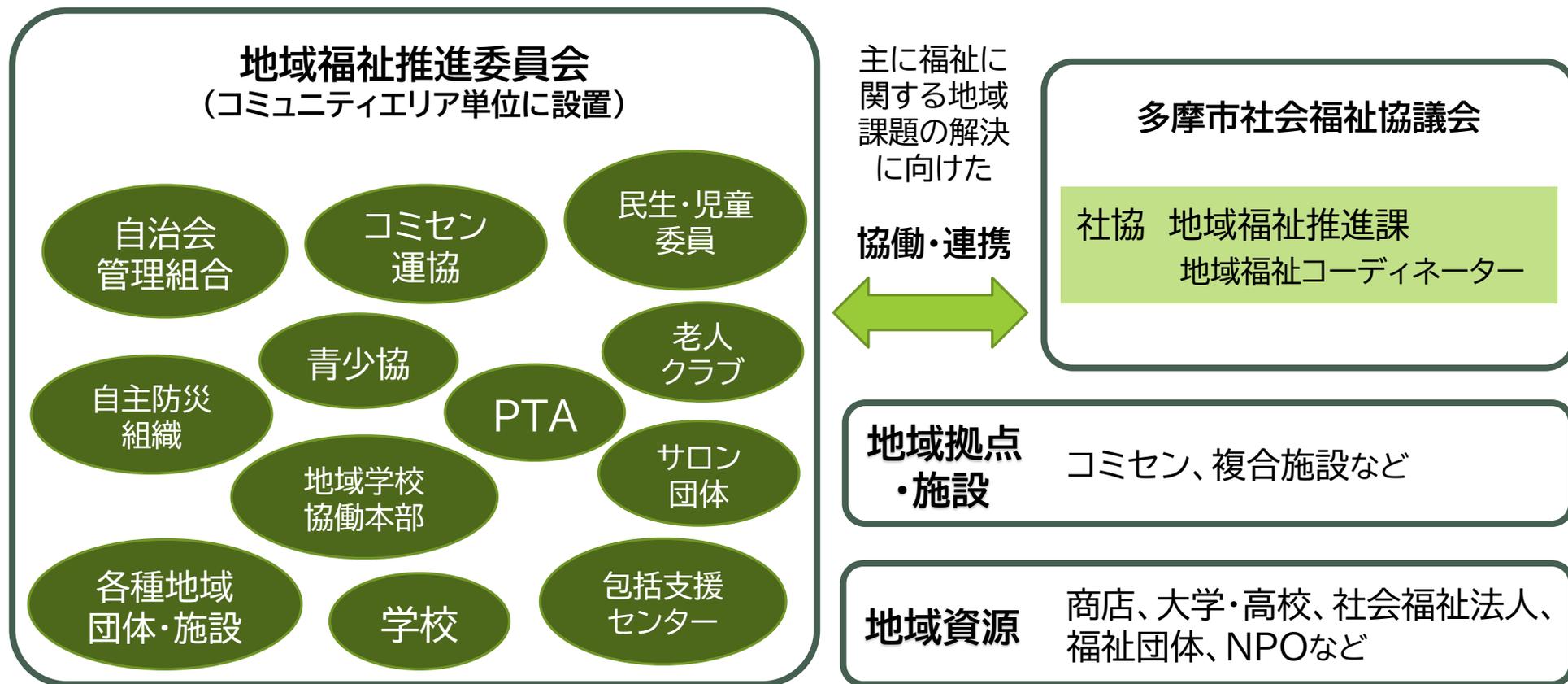
地域の様々な活動を「**支える**」ことができ、地域で活動する団体や人たちを「**つなぎ**」、地域の中で新たな人材を「**掘り起こす**」ことができるような、**市民・地域と行政との新たな協働のしくみ**が必要



（仮称）地域委員会構想

「（仮称）地域委員会構想」の3つの要素

	地域を 「支える」	地域の中を 「つなぐ」	地域の中で 「掘り起こす」
現状	<ul style="list-style-type: none"> ●行政の各部署が、分野ごとに支援しているが、部署間で連携するしくみ・体制がない ●社協が、エリアごとに「地域福祉コーディネーター」を配置 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域で活動する団体、委員が各分野で課題解決に取り組んでいるが、団体・委員間で連携・共有する場が少ない（地域福祉推進委員会のみ） 	<ul style="list-style-type: none"> ●同じ人がいくつもの委員や役職を兼ねている ●次の時代を担う地域人材が育成されていない
今後	<p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域福祉コーディネーター + ●地域担当職員が分野横断の行政の窓口として連絡調整 <p>+</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中間支援組織による地域の活動の伴走支援 	<p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ●（仮称）地域委員会 ●地域福祉推進委員会 <p>+</p> <ul style="list-style-type: none"> ●福祉関連以外の団体、委員 ●地域に関わりの少ない若い世代など 	<p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大学等と連携し、若い世代や女性をメインターゲットにした人材育成・地域活動入門講座などの開催 <p>+</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中間支援組織による次代の人材の活躍の場を提供



- 課題**
- ・参加者は高齢者が多く、若い世代の参画が少ない
 - ・地域では解決できない課題を行政と協働して解決する仕組みが構築できていない
 - ・福祉分野以外のネットワークの構築がしづらい
 - ・作成している地域カルテが有効活用されていない など

「（仮称）地域委員会構想」について

7 今後の方向性

様々な分野にわたる地域課題

多摩市

市民自治
推進室

地域担当職員

関連分野

- 大学連携
- 公民連携
- コミュニティ
- 生涯学習
- 市民活動・NPO
- 健幸まちづくり
- 地域包括ケア
- 地域で活躍
できる人材育成

地域課題の
解決に向けた

協働・連携



中間 支援 組織

地域活性化を
研究している
大学のゼミ、
地域への若い
世代の参加を
実践している
団体 など

地域拠点 ・施設

コミセン、学校、
図書館、児童館など

地域福祉推進委員会
を母体とした
プラットフォーム

地域で活動
する団体

地域で活動
する委員

自治会・
管理組合



これまで地域に
関わりのなかつ
た個人など

地域 資源

企業、事業所、商店、大学・高校、
社会福祉法人、福祉団体、NPOなど

主に福祉分野に
関する地域課題

ポピュラー
ション
アプローチ

地域課題
の解決に
向けた

協働・連携



多摩市 社会福祉 協議会

地域福祉
推進課

地域福祉
コーディネーター

地域課題のイメージ

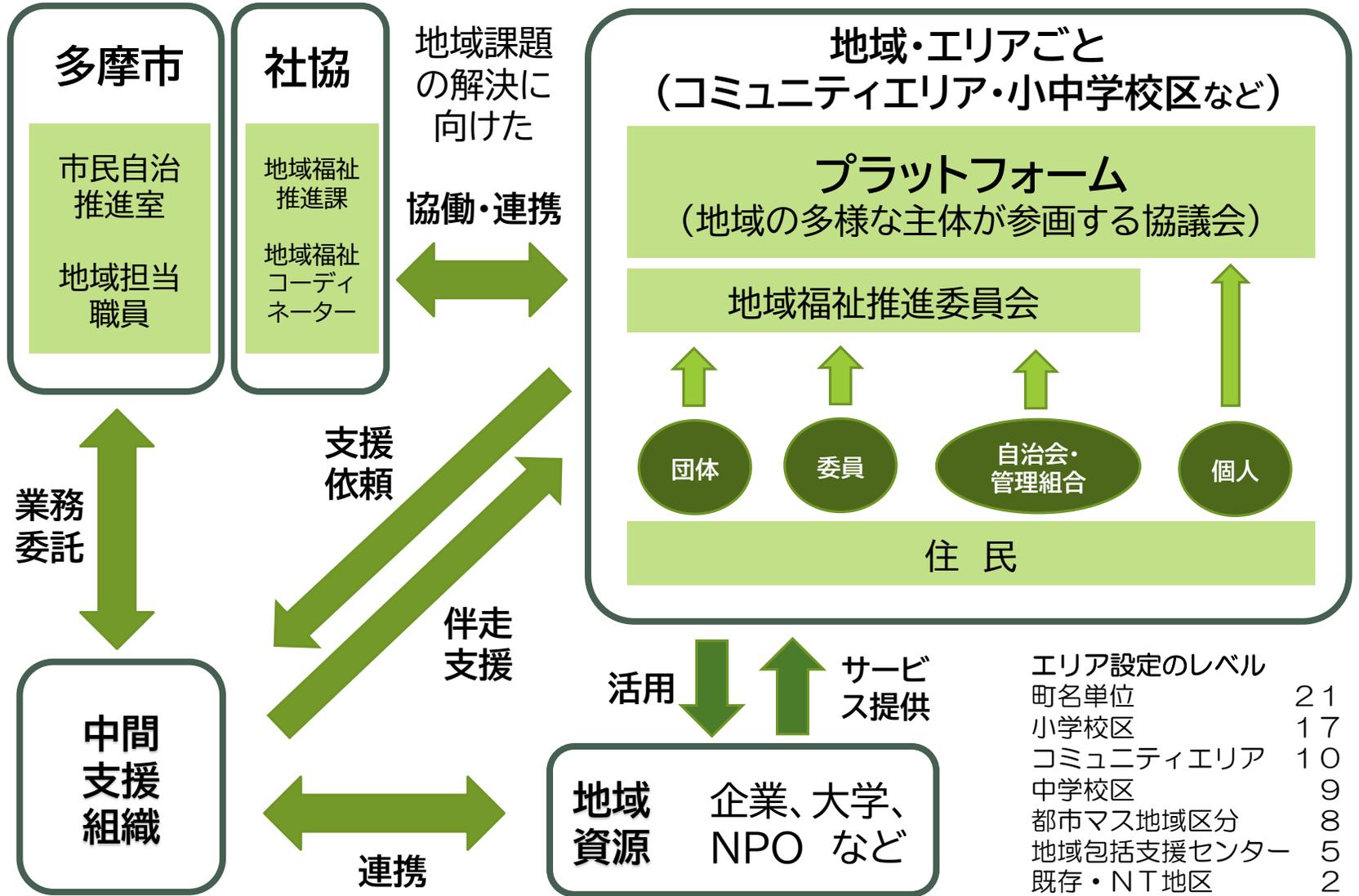
①地域福祉	日常的な見守り、高齢者のサポート など ポピュレーションアプローチに関わるもの
②まちづくり	空き家・空地、景観・緑化、エリアマネジメント 環境（清掃・美化、ごみ・資源、環境保全） など
③教育	学校教育（学習支援、コミュニティスクール） 生涯学習（地域の歴史、文化・スポーツ活動）など
④地域公共交通	デマンド型交通、コミュニティバス など
⑤地域防災	地域防災マップの作成、要援護者の避難支援 安否確認 など

「（仮称）地域委員会構想」について

9 関係図・エリア設定



- 1 関戸
- 2 一の宮
- 3 連光寺
- 4 聖ヶ丘
- 5 桜ヶ丘
- 6 東寺方
- 7 落川・百草
- 8 和田
- 9 和田（百草団地）
- 10 愛宕
- 11 乞田
- 12 馬引沢
- 13 諏訪
- 14 永山
- 15 貝取
- 16 豊ヶ丘
- 17 落合
- 18 鶴牧
- 19 南野
- 20 唐木田
- 21 中沢・山王下



エリア設定のレベル	
町名単位	21
小中学校区	17
コミュニティエリア	10
中学校区	9
都市マス地域区分	8
地域包括支援センター	5
既存・NT地区	2

「（仮称）地域委員会構想」について

10 将来イメージ

地域拠点・施設 コミセン、学校、図書館、児童館など

地域の中を
「つなぐ」



地域の中で
「掘り起こす」

地域資源
商店、大学・高校、
社会福祉法人、
福祉団体、NPOなど

大学連携による
地域人材養成講座

プラットフォーム（地域の多様な主体が参画する協議会）

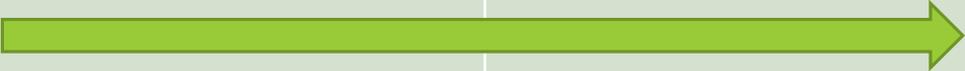
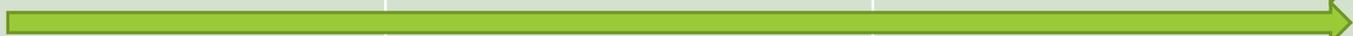
地域を
「支える」

地域担当職員・地域福祉コーディネーター
が分野横断の行政の窓口として連絡調整

中間支援組織による
地域委員会の運営支援

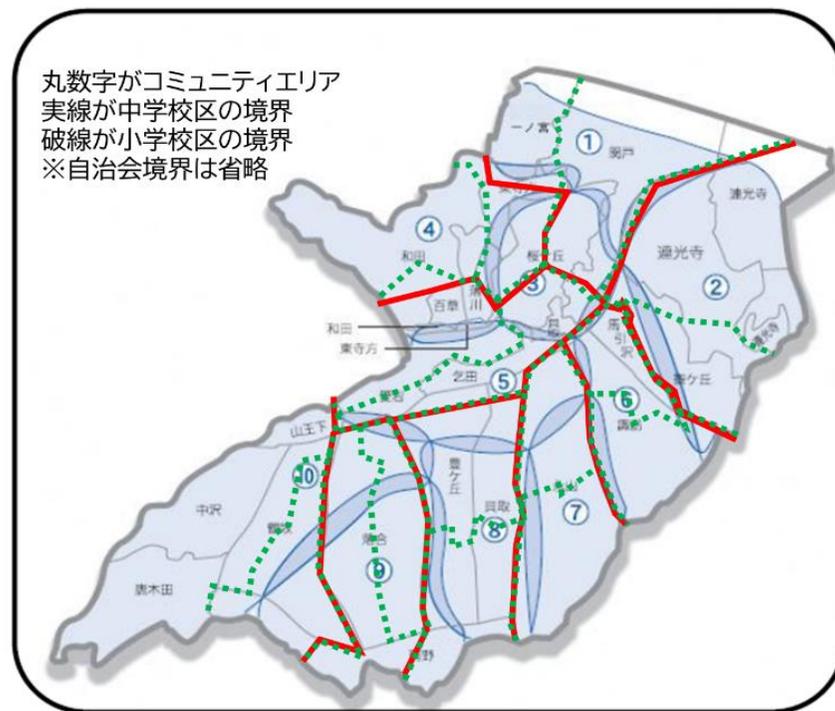
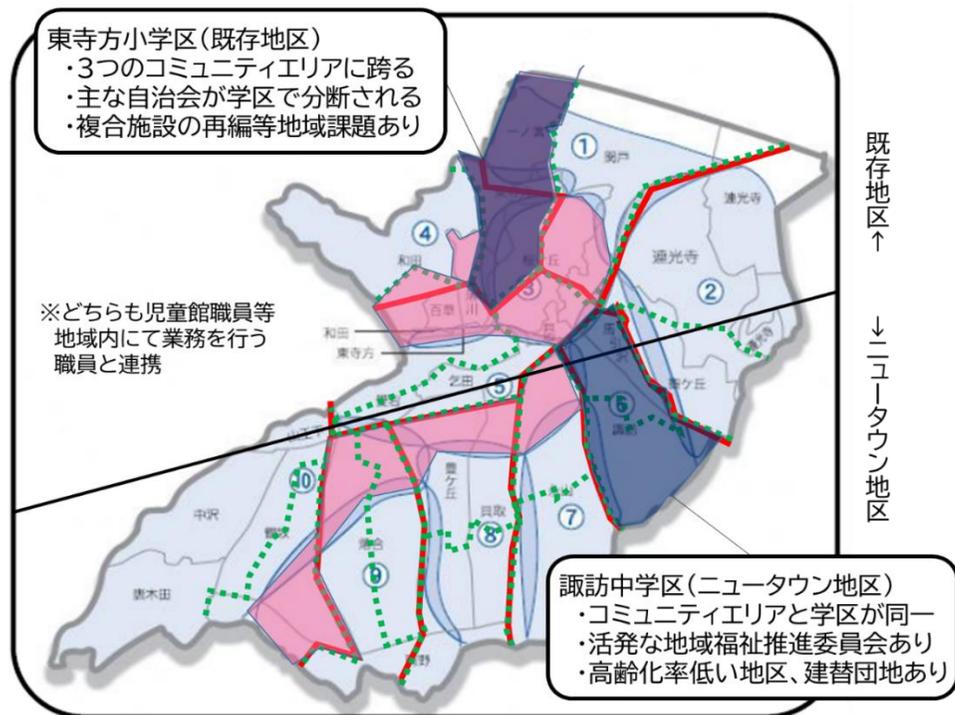
「（仮称）地域委員会構想」について

1 1 体制・スケジュール

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
推進体制	 企画課	市民自治推進室 	
進行ステップ	■第1段階 地域の課題を発見し、共有化する懇談の場を設置し、市民の意識を醸成（モデル事業）	■第1段階 モデル事業を実施するエリアを増やす ■第2段階 モデル事業を実施したエリアにおいて、地域の多様な主体が参画する協議体づくりに取り組む	
モデル的に実践するエリア	①  ②  ①③地域福祉推進委員会設置済 ②④地域福祉推進委員会未設置	③  ④ 	
中間支援組織	① 地域への若い世代の参加を実践している団体（合同会社 MichiLab） ② 地域活性化を研究している大学のゼミ（中央大学国際経営学部 中村ゼミ）		
第七期 自治推進委員会 (R1.11~R3.11)			答申 モデルエリアでの実践への検証、若い世代の地域参加、地域担当職員制度への提言

「(仮称) 地域委員会構想」について 12 令和2年度モデル事業①

エリア	エリアの特徴
1 東寺方小学区エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・既存地区にあり、域内には戸建建設などで若い世代の流入がある ・3つのコミュニティエリア(第1・第3・第4)にまたがっている ・エリアを網羅する地域福祉推進委員会が存在しない
2 諏訪中学区エリア (第6馬引沢・諏訪コミュニティエリア)	<ul style="list-style-type: none"> ・NT地区にあり、新住・区整が存在し、集合住宅の建替がある ・コミュニティエリアと小中学校の通学区域がほぼ重なっている ・エリアの地域福祉推進委員会が比較的活発に活動している



1 東寺方小学区エリア

目標

令和3年度以降に第2段階に発展させていくことを見据え、多世代が集う地域懇談会（エリアミーティング）を複数回開催。開催にあたっては、地域で活動する団体及び子育て・現役世代等幅広い世代の市民の参加を促し、参加者間で地域課題を共有化し、市民同士及び市民と市職員との関係を築く。

（1）無作為抽出アンケート（8月頃）

「地域の暮らしやすさと雰囲気づくり」に関するアンケート調査を、エリア内にお住いの2,000～3,000名の方に送付し、住民意識調査を行う。

（2）エリアミーティングの開催（3回（概ね10月、12月、2月の土日）予定）

（1）のアンケート送付の際に案内を同封し、参加者を募集。

会場は東寺方小学校体育館もしくはランチルーム等を予定。

会議の様子をグラフィックレコーディング（※）で記録。

<予定>

第1回：アイスブレイク、防災等市民共有の関心高いテーマでのワークショップ

第2回：自治体経営シミュレーションゲーム（SIM）

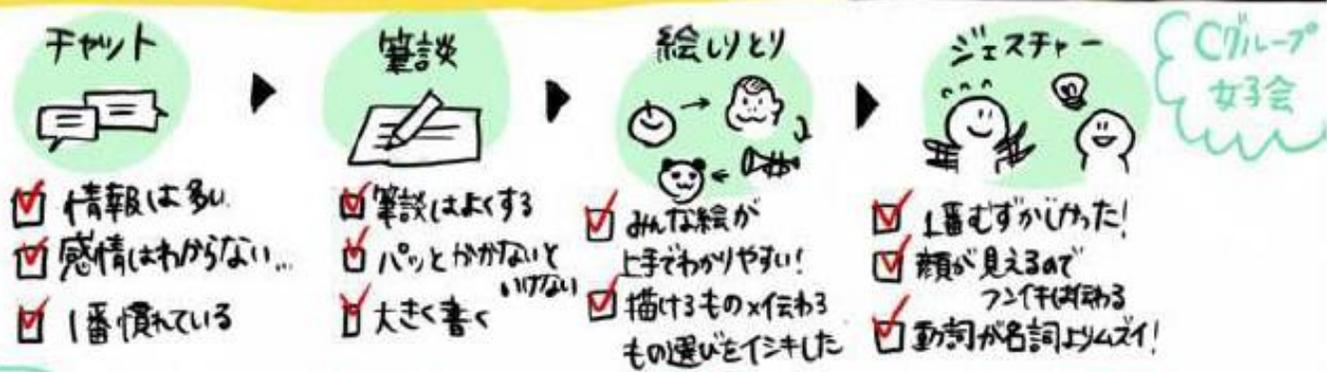
第3回：データを用いた地域カルテを作成

※文化・生涯学習推進課「わがまち学習講座」とも連携

参加しやすい場づくりに関して中央大学国際経営学部
中村ゼミと共同研究

(参考) グラフィックレコーディング

DIVERSITY & INCLUSION WORKSHOP MUTE WORK



ユカコさん

意外とむずかしかった!
声にたよらない
糸巻が初!

別府さん

ジェスチャーと紙はむずかしさがちがう
イラストは絵心がたまたま...

秋山さん

どんどん
難度があがる!
コタエが合ってるか不安...
時間がない!

佐藤さん

ジェスチャーは情報がまぎれてしまう...
紙は背景にかかっちゃう
むずかしさ

想像力! リモートなので
必須 なおさら...

伝えたいものの中から
伝えるものをえらぶのがまたむずかしい!

参加できなかった市民にも、議論の様子を絵として伝える。

将来的には、市民が記録・発信できるような講座を企画。

2 諏訪中学区エリア（第6 馬引沢・諏訪コミュニティエリア）

目 標

馬引沢・諏訪地区の地域福祉推進委員会とともに、地域に居住する若者世代が参加しやすいイベント等を実施し、地域参加のきっかけをつくるとともに、参加者とのつながりを深くすることで、地域活動への継続的な参加につなげる。

（1）地域イベントへの参画推進（年度後半）

馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会で行っている地域イベントの盛り上げ等を行うことで、若い世代を中心に幅広い年代が参加しやすいように支援。

ここで掘り起こした地域人材を地域懇談会（エリアミーティング）の参加につなげる。

※7/12に若者会議の事業として、このエリアでフィールドワークを開催。

20名程度が参加し、エリアを見て回り、地域にまつわるクイズを作成。

（2）エリアミーティングの開催（年度末）

地域イベントの盛り上げ等により掘り起こした地域人材が一堂に参加できる、地域を題材にした討議会（エリアミーティング）を開催。

その際、若者世代を中心に、幅広い年代が参加しやすくなるように周知する。

若者世代の参画に関して
合同会社 MichiLab
（多摩市若者会議）と協働